



岩崎博道  
福井大教授

新型コロナウイルスの感染拡大の「第5波」が県内を襲っている。県独自の緊急事態宣言が発令中。家族との時間や人流が増えるお盆期間中は、感染リスクが高まるのではないかと懸念されている。日本感染症学会専門医で、福井大病院の岩崎博道教授(62)に、心構えや見解を尋ねた。

(聞き手・山口育江)

8/14早苗

# デルタ株ピークこれから

## お盆の感染対策は?

### ワクチン接種後 油断せず継続を

家族が帰省してもしくても、関係なく感染リスクはあると考えた方が良い。自分が既に感染しているかもしれない、と意識した行動を常に取ることが大事。マスク着用、手洗い、換気を引き続き徹底してもらいたい。

一帰省する際、本人と家族の双方がワクチン接種を終えていた場合の感染リスクはどうなのが、お互いにワクチンを接種していないのは確

は。「お盆に家を付ける」とは。

「第五波」の行方をどう見ていく。

感染力が強い。人の動きを完全に止めることはできない。全国的に患者数がピークを迎える中、必ずその影響を受けるだろう。県内の本當のピークはこれからだ

かだが、リスクはゼロではない。油断せず、感染対策を続けてほしい。

で、容体が急変し、亡くなつた方もいる。今後、県内で病床が逼迫することが考えられる。医療者の目が届くことに対する対応ができる。県民の安心感につながるだろう。

## 若者の感染「夜の街由来」

県二州健康福祉センター（敦賀市）の高木和貴保健所長は、第五波で敦賀市の若い世代に広がる感染の特徴として、ほとんどが深夜まで営業している飲食店がひしめく「夜の街由来」との認識を示した。市役所

で六日に開かれた市新型コロナウイルス感染症対策会議で明かした。感染者が出た」とを公表した市内

の二店のほかにも、複数の店で感染者が発生しているという。「マスクをせず、海岸や自宅の庭、玄関先で

バーベキューをしていた」のも傾向の一つで、高木所長は「飲食店や（屋外の）バーベキューでも、マスクをして会話を控えて。なるべくなら別の楽しみを」と呼び掛けた。

原子力関連の協力会員の感染については、「複数人で車に同乗し、窓を開め切って現場に向かっていた事例がある。これは非常にリスクが高い」として、予防意識を再徹底するよう訴えた。

(高野正憲)